

生き生き消防団

「走りやんこ」

福井県勝山市消防団

1 勝山市の紹介

勝山市は、福井県の東北部に位置し、市の中心は県都福井市の東方約28kmの地点にあり、東南には大野市、西南は福井市、北西は坂井市、永平寺町、北は石川県に隣接しています。

市街地は九頭竜川の流れて沿って形成された河岸段丘に位置しており、明治以来の地場産業である繊維産業を中心とした商工業や古くから盛んな農林業を基幹産業とする水と緑の豊かな田園都市です。

当市は日本一の恐竜化石発掘地でもあり、市内には全国有数の自然系博物館である「福井県立恐竜博物館」があります。また、このたび、ユネスコが提唱する地球活動の遺産を主な見所とする自然公園である日本ジオパークに認定され、市の全域が「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」となりました。

さらには、明治38年から平成10年まで中堅機業場として操業していた建物『はたや記念館「ゆめおーれ勝山」』をメインに、市全体が丸ごと博物館になる「ふるさと元気博物館」を目指して、小さくてもキラリと光る意欲と元気にあふれたまちづくりを進めているところです。

2 消防団の概要

昭和29年9月1日に1町8村の合併により市制が施行されるにあたり、現在の勝山市消防団が発足しました。12分団、消防団長以下293名の編成で、3台のポンプ自動車10台の小型動力ポンプ付積載車を配備して各管轄区域の防災活動にあたっています。

平成3年には、県内初の女性消防団員3名が誕生し（現在24名）災害弱者宅の防火診断を実施する「ファイヤーヘルパー」等、防火防災活動の普及啓発活動を中心に活躍しています。平成22年度には12名の女性消防団員が応急手当普及員の資格を取得し、住民への応急手当の指導に取り組んでいます。

3 消防団の活動

消防団の主な全体行事としては、1月の出初式に始まり、消防署と合同での消防総合訓練（春・秋）、林野火災防御訓練と入山者の遭難に対する警戒、6月の水防訓練、各地区の自衛消防隊との合同訓練、8月の夏祭り警備、11月の団員教養、防火パレード、年末警戒等を実施し地域住民が頼れる消防団として活動を展開しています。なかでも消防ポンプ自動車操法には積



女性消防団員による手当指導

極的に取り組み、毎年実施される福井県消防操
法大会での優勝を目指し、各分団が輪番制によ
り出場しています。過去県大会において幾度と
なく優勝、準優勝を勝ち取り全国大会にも出場
しました。

4 走りやんこ

明治29年4月13日午後9時、旧勝山町に大
規模な火災が起こり、町並みの8割を焼き尽く
しました。これを「勝山大火」と言い、以来、
4月13日は春季消防総合訓練日となり、訓練の

後に分団対抗リレー競技「走りやんこ」が行わ
れることになりました。

出場する選手は12分団から各14名ずつで計
168名です。これを2組に分け6分団ずつ対抗
で行います。各分団は青・黄・赤・茶・緑・黒
に色分けされ、長さ1.6m、重さ3.5kgの「ま
とい」がバトンとなります。

活動服にヘルメット、長靴、首には色別の
はちまきを巻きたいでたちで、まといを担いだ6
人の選手が出発地点に勢ぞろいし、旗を振り上
げる合図でスタートします。



一斉放水



ラッパ隊

選手たちは、沿道の住民からの声援を受け、まといをリレーしながら市街地のコース約2kmを走りぬけ長山公園上り口に至ると「走りやんこ」最大の見せ場が訪れます。

ここでは4mも高い所で待っている最終走者に向って前走者がまといを放り上げます。

それを上手にキャッチした最終走者が桜満開の長山講武台跡に立てられた6本の色別の標旗に向って走り、標旗をまといで突き倒します。これを「ぶんてん突き」と言いこの時点で順位が決まります。

この「走りやんこ」の起源にはいくつかの説がありますが、現在は「勝山大火」を契機として実施している春季消防総合訓練の一環として行われる分団対抗のリレー競技であり、高いところへも駆け登れる強い脚力と機敏性を養うためのコース設定がされており、市の北端を起点とし、長山講武台跡の到着点までその通過順路を定めています。

団員の力強い姿を市民にPRする「走りやんこ」は、昭和56年4月7日に市の無形文化財に指定され、古き良き伝統と文化を後世に伝承す



走りやんこ スタート地点



4mのまとい放り上げ

るとともに市民の安全・安心の礎となっています。

5 終わりに

当市の消防団員の平均年齢は44.3歳で平均勤続年数は12.5年となっています。充足率は約98%を維持しておりますが、団塊世代のベテラン団員の退職が相次ぎ、技術を要する現場活動は決して楽観できない状況です。

このため、複雑多様化する各種災害に対応で

きるよう日頃から知識の向上と訓練を積み重ね技術の習得に励み、万一の災害に備えています。

また、「消防団協力事業所表示制度」等を通して多くの事業主の方々に理解を求め、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛をもって、「組織力」や「機動力」の確保・維持に努め、諸先輩が残した伝統を重んじて、「走りやんこ」の精神のもと全団員が一致団結して安心で安全なまちづくりを目指しています。



4mのまとい放り上げ上